

林娟娟
编著

大学日语泛读

大学
日语
泛读

(第一册)

大学日语泛读

第一册

林娟娟
编著

厦门大学出版社

[闽]新登字 09 号

大学日语泛读

(第一册)

林娟娟 编著

*

厦门大学出版社出版发行

(地址:厦门大学 邮编:361005)

惠安县印刷厂印刷

(地址:惠安螺城镇建设大街 106 号 邮编:362100)

*

开本 850×1168 1/32 11 印张 275 千字

1997 年 7 月第 1 版 1997 年 7 月第 1 次印刷

印数:1-2000 册

ISBN 7-5615-1290-2/H·84

定价:15.00 元

本书如有印装质量问题请直接寄印刷厂调换

前言

之所以萌发编写本教材的念头，主要原因是高等院校日语专业尚无较理想的泛读材料。编者多年来在泛读课教学中大胆采用日本中、小学的课文以及报刊的优秀文章作为教材，采用日本日语能力考试试题以及自己编写的习题作为练习，取得了良好的教学效果，颇受学生欢迎。为满足当前教学的急需，现将其修改、补充、整理成册。

本教材严格按照《高等院校日语专业基础教育教学大纲》的要求编写。为达到《大纲》对日语阅读课提出的目标，编者进行了精心选材，选入课文、阅读的文章均系原文。选用的文章内容健康、语言规范、题材广泛、体裁多样、生动有趣，以此确保本教材具有较好的思想性、知识性、趣味性和实用性。有计划地选择句型、语法和词汇，配以详明的解说和丰富的例句，力求让学生既有系统又比较容易学到标准和自然优美的日语。练习是本教材中一个很重要的部分，形式多样，难度适中，实用性较强，可以进行行之有效的阅读理解训练，提高阅读的能力。

由于我校日语专业采用的《新编日语》教材是以听说为主，读写为辅，编者从学习日语的实际出发，尝试着采用以阅读理解为主的方式与之相配套，在编写本教材时只做句型和词语的解说，重要语法则跟随《新编日语》第二册教学进程的安排，循序渐进。

本教材的编写承蒙陈端端老师大力协作，并得到日籍教师山口展生先生仔细审阅，以及日语专

业师生的热忱关心，在此谨表衷心的感谢。

由于编者水平有限，加之时间仓促，教材中的错误和不妥之处在所难免，敬请读者批评指正，以便再版时补充和更正。

林明耀

一九九七年五月

于厦门大学

本册内容与结构

一、本册内容

本册是《大学日语泛读》第一册，适用于一年级下学期或二年级上学期。本册编入的句型共约六十四项，词汇量为一千零五十七个。

二、本册结构

本册由十课组成，每课教学时间为七、八学时，每课的结构是：课文、生词、解说、阅读、练习等项。它们互相照应，互相配合，形成一个整体。

1. 正课

① 课文

课文包含故事、民间传说、说明文等。各课均为叙述文，重点力求均等。

② 词汇

词汇是本课出现的生词，用以下形式列出：词汇——读法、音调——词性——汉语释义。释义限于本课中的词义或一般常用词义；音调以《新明解国词辞典》第四版为依据，用①②……的数字

形式表示；单词词性用以下略语表示。

〔名〕——名词 〔代〕——代名词 〔数〕——数词 〔副〕——副词 〔接〕——接续词 〔连体〕——连体词 〔接尾〕——接尾词 〔专〕——专有名词 〔词组〕——词组 〔终助〕——终助词 〔助数〕——助数词 〔形〕——形容词 〔形动〕——形容词 〔自五〕——自动词五段动词 〔他五〕——他动词五段动词 〔自上二〕——自动词上一段动词 〔自下一〕——自动词下一段动词 〔他上一〕——他动词上一段动词 〔他下一〕——他动词下一段动词 〔自サ〕——自动词サ变动词 〔他サ〕——他动词サ变动词

③ 解说

用丰富的例句对本课出现的语法、句型以及惯用语进行便于理解的说明，例句均配有译文。

④ 阅读

选用二篇与课文内容相关的文章，每篇均列出生词，排列的方式与课文出现的生词一样。

⑤ 练习

练习按照课文和二篇阅读文章的顺序分成三个部分，重点放在课文，这主要是为了确保学到每课的重点，同时又使学生自己能检查对内容的理解和词汇的掌握。练习参照了日语能力考试的要求和形式。

2. 书后附录

列出语法项目一览表、生词一览表和主要参考书目。

目 录

第一課

本文	一
ありの行列	一
単語リスト	三
解説	五
一 から まで	五
二 という	五
三 ために	六
四 補助動詞「いく」「くる」	七
五 形式体言「こと」	九
六 格助詞「まで」	十
七 形式体言「わけ」	十
八 副助詞「ほど」	十一
九 慣用句	十二
閲読	十三

第二課

練習	十六
1 みつばちのダンス	十三
2 バーゲンセールを見に行きます	十五
本文	二五
めだか	二五
単語リスト	二八
解説	三十
一 比況助動詞「ようだ」	三十
二 ことがある	三五
三 ことができる	三五
四 副助詞「だけ」	三六
五 慣用句	三七
閲読	三七
1 ふろそうじ	三八

2 たった一本でも

四一

練習

四三

第三課

本文

五三

おにの話

五三

単語リスト

五七

解説

五九

一 ……から……にかけて

五九

二 ……にしたがつて

五九

三 ……からと言つて

六〇

四 ……てばかりいる

六一

五 ……というのは(とは)

六二

六 口語否定助動詞「ぬ(ん)」

六三

七 形式体言「わけ」

六四

八 ……といつても

六五

九 ……だけで(は)なく

六六

十 構成复合動詞的補助動詞

六七

十一 慣用句

六八

閲読

六九

1 かつぱとてんぐ

六九

2 おにたのぼうし

七三

練習

八一

第四課

本文

九三

雪国は今――

九三

単語リスト

九六

解説

九八

一 ……う(或よう)とする

九八

閲読

一〇〇

1 太郎こおろぎ

一〇〇

2 こそあど言葉

一〇五

練習

一一一

第五課

本文

一二一

チンパンジ―と道具

一二一

単語リスト	一二四
解説	一二五
一 副助詞「くらい(ぐらい)」	一二六
二 「のに」表示目的	一二六
三 …わけにはいかない	一二七
四 …から見ると	一二八
五 副助詞「きり(ぎり)」	一二八
六 慣用句	一三〇
閲読	一三一
1 人間は言葉を言う	一三一
2 お母さんの手	一三四
練習	一三八
第六課	一四九
本文	一四九
一つの花	一四九
単語リスト	一五四
解説	一五五
一 …だの…だの	一五五

二 …どころではない	一五六
三 …と言えば	一五七
四 …代わりに	一五八
五 副助詞「だって」	一五九
六 …うちに	一六一
七 慣用句	一六一
閲読	一六三
1 カブトガニを守る	一六三
2 大陸は動いている	一六五
練習	一六八
第七課	一七七
本文	一七七
とびこめ	一七七
単語リスト	一八一
解説	一八三
一 助数詞「艘、匹、目」	一八三
二 …やら…やら	一八四
三 比況助動詞「みたいだ」	一八五

四 补助动词「みせる」……………一八七

五 ……途端(に)……………一八七

六 否定推量助动词「まい」……………一八八

七 ……ない限り……ない……………一八九

八 たとえ……としても……………一九〇

九 ……のあまり……………一九一

十 慣用句……………一九一

閲読……………一九四

1 “乱暴な達筆”より“ていねいな悪筆”……………一九四

2 勇気のある人……………一九六

練習……………一九九

第八課……………二〇九

本文……………二〇九

自然を守る……………二〇九

単語リスト……………二二五

解説……………二二八

一 ……一方(で)……………二二八

二 ……に応じて……………二二九

三 ……結果……………二二〇

四 ……ては……………二二〇

五 ……に止らず(止まらない)……………二二一

六 仮に……としても……………二二二

七 形式体言「もの」……………二二三

八 构成复合动词的几个补助动词……………二二三

九 接尾词「同士」……………二二四

十 慣用句……………二二五

閲読……………二二六

1 またとない天敵……………二二六

2 文のつなぎ方……………二三〇

練習……………二三五

第九課……………二四六

本文……………二四六

外来語と日本文化……………二四六

単語リスト……………二五二

解説……………二五四

一 接尾词「み」……………二五四

二	…による	二五四
三	副助詞「さん」	二五五
四	慣用句	二五六
閲読		二五七
1	たいせつなおかね	二五七
2	おかねの発達	二五九
練習		二六〇
第十課		二七〇
本文		二七〇
抗議する義務		二七〇
単語リスト		二七二
解説		二七四
一	…というのは…からだ	二七四
二	…に限る	二七五

三	…のは…からだ	二七六
四	…より(も)、むしろ…	二七六
五	形式体言「はず」	二七七
六	慣用句	二七九
閲読		二七九
1	責任というもの	二八〇
2	高くつきますストレス解消	二八二
練習		二八五
附录		二九九
语法项目一览表		二九九
生词一览表		三〇二
主要参考书目		三三七

本文

第一課

ありの行列

おおたきてつや
大滝哲也

夏になると、にわのすみなどで、ありの行列をよく見かけます。その行列は、ありのすからえさのある所まで、ずつとつづいています。ありの行列は、なぜ出来るのでしょうか。

アメリカに、ウイルソンという学者がいます。この人は、次のようにして、ありの様子をかんさつしました。

はじめに、ありのすから少しはなれた所に、一つまみのさとうをおきました。しばらくすると、一ぴきのありが、そのさとうを見つけました。これは、えさをさがすために外に出ていたはたらきあります。ありは、



やがてすに帰っていきました。すると、すの中から、たくさんのはたらきありが、次々と出てきました。そして、列を作つてさとうの所まで行きました。ふしぎなことに、その行列は、はじめのありがすに帰るときに通つた道すじから外れていないのです。

次に、この道すじに大きな石をおいて、ありの行く手をさえぎつてみました。すると、ありの行列は、石の所でみだれて、ちりぢりになつてしまいました。ようやく一ぴきのありが、石の向こうがわの道のつづきを見つけました。そして、さとうに向かつてすすんでいきました。そのうちに、ほかのありがたちも、一ぴき二ひきと道を見つけて歩きだしました。まただんだんに、ありの行列が出来ていきました。目てき地に着くと、ありは、さとうのつぶをもつて、すに帰っていきました。帰るときも、行列の道すじはかわりません。ありの行列は、さとうのななまりがなくなるまでつづきました。

このかんさつから、ウイルソンは、はたらきありが、地面に何か道しるべになるものをつけておいたのではないか、と考えました。

そこで、ウイルソンは、はたらきありの体の仕組みをこまかに研究してみました。すると、ありは、おしりのところから、とくべつのえきを出すことが分かりました。それは、に、おいのある、じよう発しやすいえきです。

この研究から、ウイルソンは、ありの行列の出来るわけを知ることができました。はたらきありが、えきを見つけると、道しるべとして、地面にこのえきをつけながら帰るので

す。ほかのはたらきありたちは、そのにおいをかいで、においにそって歩いていきます。そして、そのはたらきありたちも、えきをもつて帰るときに、同じようにえきを地面につけながら歩くのです。そのため、えきが多いほど、においが強くなります。

このように、においをたどつてえきの所へ行ったり、すに帰ったりするので、ありの行列が出来るといふわけです。このえきにおいては、ありのしゅるいによつてちがうことも分かりました。それで、ちがったしゅるいのありの道しるべが交わつていても、けつしてまようことがなく、行列がつづいていくのです。

単語リスト

蟻(あり)①「名」 蚂蚁

行列(ぎようれつ)①「名」 行列, 隊伍

隅(すみ)①「名」 角, 角落

見かける(みかける)①「他下一」 见过, 看到过

巢(す)①①「名」 巢, 窩

餌(えさ)②①「名」 餌, 饲料

ウィルソン「专」 威尔逊

学者(がくしや)①「名」 学者

観察(かんさつ)①「名・他サ」 观察

初め(はじめ)①「名」 开始, 起源

「光村図書 小学校(国語 三上)による」

抓み(つまみ)①[名] 撮,抓

△ひとゝ 一撮,一抓

砂糖(さとう)②[名] 糖,砂糖

匹(ひき)「接尾」(鸟,兽,鱼,虫等的单位)匹,只

働き蟻(はたらきあり)①[名] 工蚁

次々(つぎつぎ)①[副] 接连不断

通う(かよう)①[自五] 来往,通行

道筋(みちすじ)①[名] (通过的)道路,路线

行手(ゆくて)③④[名] 前方,前路,去路

遮る(さえぎる)③[他五] 遮挡,打断

乱れる(みだれる)③[自下二] 杂乱,不平静

散散(ちりぢり)①[名] 四散,离散

漸く(ようやく)①[副] 好容易,好歹

続き(つづき)①[名] 衔接,接续

内(うち)①[名] 以内,里面

目的(もくてき)①[名] 目的,目标

粒(つぶ)①[名] 粒,颗粒

固まり(かたまり)①[名] 块,疙瘩

地面(じめん)①[名] 地面

道しるべ(みちしるべ)③⑤[名] 路标

仕組(しくみ)①[名] 构造,结构

細か(こまか)①②[形动] 细小,详细

尻(しり)②[名] 臀部,后部

特别(とくべつ)①[副] 特别,特殊

液(えき)①[名] 液体

匂い(におい)②[名] 气味,香味

蒸発(じょうはつ)①[名・自サ] 蒸发,汽化

嗅ぐ(かぐ)①[他五] 闻,嗅

沿う(そう)①[自五] 沿,按照

辿る(たどる)②[他五] 边走边找,追寻

種類(しゅるい)①[名] 种类,类别

違う(ちがう)①[自五] 不同,错误

交わる(まじわる)③[自五] 交叉,相交

迷う(まよう)②[自五] (方向的)迷失;犹豫

解 説

一、(体言)から(体言)まで、…

ありのすからえさのある所までずっとつづいています

这个句型规定时间、空间、数量等的起止点,表示「从…到…」的意思。

例:

○ 大講堂で三時から四時半まで会議があります。(三点到四点半在大礼堂开会。)

○ 東京から大阪まで飛行機で行き、そこから電車で京都へ行く。(从东京乘飞机到大阪,

然后在大阪乘电车去京都。)

○ 彼女は朝から晩まで働いています。(她从早工作到晚。)

二、(体言・用言终止形)という(体言)

アメリカに、ウィルソンという学者がいます。

「いう」接在格助词「と」的下面构成「という」的形式,概括前项内容并用作后项体言的定语。在句子里起综合上文修饰下文的作用,构成同位语。根据上下文有种种含义,可译成「这样的」;这